

合志市総合教育会議 次第

令和 2 年 10 月 27 日（火）13 時 30 分～
合志市役所 2 階庁議室

1 開 会

2 市長あいさつ

3 議 題

（1）合志楓の森小・中学校の進捗状況について

（2）GIGA スクールの進捗状況について

（3）二学期制試行の中間報告について

4 その他

5 閉 会

令和2年10月27日 総合教育会議

議題 1

新設校の進捗状況の報告について

令和2年（2020年）10月17日現在
合志楓の森小・中学校 建築状況



- 1、校歌について
- 2、登下校に関する支援・見守り体制について
- 3、合志楓の森中学校の部活動について
- 4、学校給食一部業務委託事業者の選定について

令和2年10月27日 総合教育会議

新設校の進捗状況の報告について

1、校歌について

○10月8日に、両校の校歌（作詞・作曲）制作についての2者協議（教育委員会と赤星誠司氏）を行いました。

赤星誠司氏（合志市に縁があり、過去に合志中に赴任、長年、ドレミの広場に参画、現在、大津高校音楽科講師）

○同日に一旦、両校の校歌の作詞について、歌詞の案を預かっており、合志市が関係者に示し、11月末にかけて、確認作業を行います。

○本日、校歌の案について試聴していただきます。

『合志楓の森小学校』校歌（案）

朝日と夕日の
対比

- 1 朝日輝く 大阿蘇の
恵みの風を 受けながら ←恵楓園をイメージ
心と心と 寄せあえば
新たな夢が 広がるよ
笑顔いっぱい 希望かなえる
楓の森小学校 ←音的に長くなるので「合志楓の森」にしなかった
- 2 夕日はえゆく 金峰山に
輝く未来 見つめつつ
誇れる人に なるために
愛と正義 語る場所 ←人権教育の拠点
勇気いっぱい 心優しき
楓の森小学校
- 3 光あふれる 合志市の
大地にいだかれ 揚々と
声を響かせ 健やかな
心と体 育てよう ←健幸都市こうし
元気いっぱい 力みなぎる
楓の森小学校

『合志楓の森中学校』校歌（案）

- キーワード
- 創造を意味する
- 合志大地に 薫る風 ←校歌の最初は地名が入るところが多い。合志大地は造語。

集う我らの 幸せよ

愛と正義の 名のもとに

真理の光 求めんと ←人権教育の拠点

永遠に誓う 若人の

楓の森中学 我ら ←リズムの都合上、倒置法になった
 - 歴史を刻む この森に

爽やかなる 恵の風 ←恵楓園をイメージ。小学校は「めぐみのかぜ」

人を愛し 志を合わせ ←合志

誠実の道を 貫かん

敬愛深き 若人の

楓の森中学 我ら
 - 霞花咲く 広平野 ←市の花「かすみ草」

くぬぎの緑 目に映し ←市の木「クヌギ」

新世興すを 使命とし

高き理想を 掲げんと

瞳輝く 若人の

楓の森中学 我ら

令和2年10月27日 総合教育会議

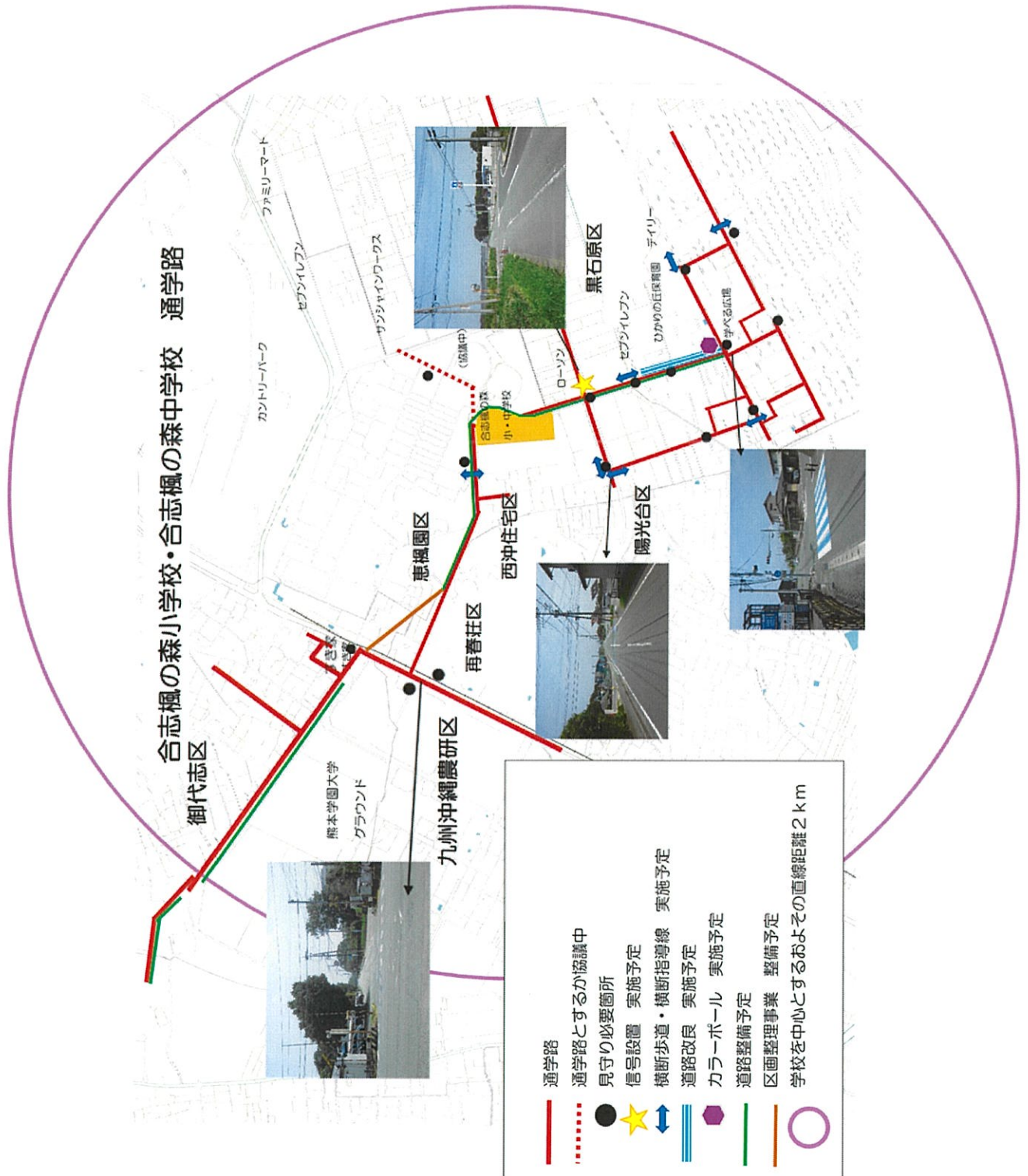
新設校の進捗状況の報告について

2、登下校に関する支援・見守り体制について

- 両校のPTA組織の立ち上げ準備について、9月4日に分離元の4校のPTA役員で協議が持たれました。
- 両校のPTA設立総会時期は令和3年4月頃に正式に決定予定とのこと。
- そのためのPTA準備委員の選定を9月から10月にかけておこない、遅くとも12月までには選定していくとのこと。
- PTA準備委員12名（合志南小出身4名、西合志東小出身4名、合志中出身2名、西合志南中出身2名、両小学校の各4名のうち1名は、現小学6年生のPTAとする）。
- 開校準備委員からの、見守りボランティアの担い手探しは、個別で並行して行われています。
- 登下校の見守りの一端を担っていただいている、民生児童委員（福祉課所管）との開校後の見守り体制の協議について、1回目の協議が11月6日に予定されています。
（東部地区・西部地区の各々から、校区内の民生児童委員と民生児童委員の役員が参加）
- 登校班については、関係者の意向・協力なしには進められない事項です。開校後のある程度の期間までは、児童生徒の安心安全のために、登校班が編成されることが望まれます。
- 恵楓園の東側方面からの通学路については、恵楓園の敷地内の通行について、恵楓園および恵楓園自治会と継続協議しています。
- 通学路の整備については、建設課および土地区画整理室が年次計画を立てて、計画的に令和5年度頃までを目途に進めていきます。開校前の令和2年度においても、通学路の暫定的な交差点の整備を行います。

新設校の進捗状況の報告について

通学路図面



令和2年10月27日 総合教育会議

新設校の進捗状況の報告について

3、合志楓の森中学校の部活動について

- 開校時の設置部活は6つの部活動としています。（野球部、卓球部、軟式テニス部、男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、音楽部）
- その他、社会体育としての部活動の受皿や、追加の部活動の設置については、開校後の学校運営・運用の中で、検討し、判断されていきます。
- 令和3年4月の開校時の設置予定部活は6部と決定した旨を、令和2年3月時点で、当事者にお知らせをしてきました。
- 合志楓の森中学校の2年生として転籍する、現中学1年生のうち、分離元でのみ存在する部活動（陸上部、水泳部、バドミントン部等）に入部している在校生の、開校後の部活動の取扱いについては、現在も継続協議中です。
- 練習と中体連の出場資格が、協議事項の中心となりますが、種目ごとの規定や条件、開校時点の教職員の配置数も考慮しつつ、学校運営及び管理の事項にあたるため、分離元の2つの中学校長と、合志楓の森中学校の校長の判断を仰ぐこととなります。



令和2年10月27日 総合教育会議

新設校の進捗状況の報告について

4、学校給食一部業務委託事業者の選定について

- 合志楓の森小学校・合志楓の森中学校学校給食施設の運営に関する基本方針を策定（令和元年11月29日）。
- その基本方針に基づき、両校の学校給食一部業務委託事業者を選定する選定委員会を設置（令和2年6月12日）。
- 標記の選定委員会（7名：大学教授、栄養教諭、学校栄養職員、学校長、職員、教育長）により、選定事務を進めました。以下、
 - 令和2年6月22日 第1回選定委員会
 - 令和2年6月29日 募集要項の公告
 - 令和2年7月27日 募集説明会
 - 令和2年7月末～8月末
募集要項に対する質疑、回答、参加表明書の受付
 - 令和2年8月25日 第2回選定委員会
 - 令和2年9月30日 第3回選定委員会
 - 令和2年10月15日 第4回選定委員会
- 10月15日の選定委員会の結果、優先交渉権者を選定しました。
- 本日の総合教育会議、教育委員会議、11月開催予定の開校準備委員会、市議会全員協議会で結果の報告を行い、並行して契約を締結。
- 令和3年4月の運営開始に向けての準備を行っていきます。

議題2

GIGAスクールの進捗状況

◇GIGAスクール構想◇

1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもも含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す。

・本市の小中学校のICT環境：

①校務用端末、②PC教室用端末、③電子黒板、④特別支援教室用ipad、⑤校務支援システム

(1) 校内無線LANの整備

・事業：合志市学校教育ネットワーク無線環境整備・電源キャビネット整備工事

・整備内容：①校内LANを敷設（普通教室・特別支援教室・特別教室）
②無線アクセスポイントを設置（普通教室・特別支援教室（214台））
③充電保管庫を設置（普通教室・特別支援教室（216台））

・工期：令和2年7月13日から令和2年12月28日まで

・工事費：131,780,000円（うち消費税額11,980,000円）

・補助額：71,630,000円

・進捗状況：10月27日現在、①の配線・配管工事と②のアクセスポイントの設置が8校完了し、11月下旬までに残りの2校が完了予定。また、③の充電保管庫の納入及び

設置工事は11月中旬から順次搬入し、同月内に設置完了予定。

(2) タブレット端末の整備

- ・事業：（仮契約）GIGAスクール用端末購入
- ・内容：タブレット端末を7630台備品購入する。（Dynabook K50 GIGAノック）
- ・納入期限：令和3年3月24日まで
- ・購入金額：461,470,460円（うち消費税額41,951,860円）
- ・補助額：206,820,000円（加えて、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金も充当予定）
- ・進捗状況：熊本県GIGAスクール用端末に係る共同調達に参加し、県からの落札者及び落札金額通知を基に、県の仕様のないフィルタリングソフト、電子黒板との通信ソフト、無償の教育ソフトを追加して仮契約を行う。
- ・スケジュール：7/24参加意思表明➡8/20公告➡9/11開札・落札者及び落札金額通知➡

10月中旬に落札者と仮契約➡第4回市議会定例会で議決後、本契約予定。

(3) 今後のGIGAスクール関連の計画

- ・事業：モバイルルーター購入事業（家庭学習のための通信機器整備支援事業）
- ・内容：12月補正予算において備品購入をするように予算要求。（台数は検討中）
- ・目的：学校休業中における家庭学習を支援するために児童生徒に貸与する。
（要保護・準要保護世帯への貸与）

- ・事業：ICT支援員整備事業
- ・内容：第4回市議会定例会において令和3年4月から4校に1人配置できるように債務負担行為を計上。
- ・目的：学校における教育の情報化推進を実務的に支援するため、教職員及び児童生徒のICT機器操作の補助、ICT活用提案、情報モラルの事例紹介などの役割を担う。

2学期制試行の中間報告

1 2学期制実施についての各学校の意向

ア 2学期制へ完全移行したほうがよい	7校（小：4校、中：3校）
イ 条件付きで2学期制へ移行してよい	2校（小：2校）
ウ 2学期制へ移行せず3学期制に戻す	0校
エ その他	1校（小：1校）

2 2学期制実施についての各学校からの意見・感想

（1）「子どもに向き合う時間の確保」の視点から

- 夏休み前の事前指導（教育相談も含む）が、時間をかけてできた。（小）
- 授業時間の確保ができ、子どもと向き合える時間が増えた。（小）
- 今年度はコロナ禍という特殊な状況にあるが、教職員の負担が軽減し、子供とふれあう時間が確保できたと思う。（小）
- コロナ拡大のため学校行事が削減され比較はできないが、3学期制に比べ、生徒と向き合う時間が確保できているように感じる。本校では不登校数も激減した。（中）
- 特に学級担任の事務的な作業に係る労力については大きく軽減され、こまめに生徒の姿を見て記録しようとか、計画的に進めようとする姿も見える。（中）

（2）「教育課程」の視点から

- 時数の確保がしやすく、教育活動が余裕を持って実施でき、内容も深まった。（小）
- 2学期制にしたことで、生徒及び職員にもゆとりができ、充実した教育活動ができる。（中）
- 行事を精選しなければならないという意識が高まった。（小）
- 2学期制になっても、これまで同様に長期休業前後は節目の集会をして子どもたちに振り返りと新しい目標設定を指導できている。学校としてのルーティーンはほとんど変わらない。（中）
- コロナ禍により、行事を延期したり、実施要項を感染防止で作り直したりして、学校は大きな負担となったが、2学期制になったことで評価や通知表作成の事務作業に追われず、計画的に教育活動を運営できた。（中）

（3）「評価」の視点から

- 評価の期間が長く、精度の高い評価となった。（小）
- 評価、通知表作成の回数が3から2になり、職員の負担が減った。（中）
- 3年部では、ミスが許されない入試事務と通知表作成が重ならず、ゆとりを持って調査書の作成や入試事務ができる。（中）
- 3学期制の場合、12月（特に3年生）は受験用の評定交換や調査書の作成と平行して通知表の作成があり、煩雑になる。（中）
- 技能教科では、テスト作成の回数も減り、余裕を持って授業づくりができる。（中）

- 学期末の評価の制度が高まった。評価材料をしっかりと見つめることができる時間があつた。(中)
- 前期、後期になると定期テストの範囲が広範囲になるため、計画的な単元テスト等の工夫が必要。
- 保護者への情報提供の機会が少なくなるので、日頃からの丁寧な情報提供が必要である。(小)
- 今年はコロナ禍のためどうしてもなかったが、夏休み前までの我が子の学校での様子(通知表など)を知りたい保護者への対応が必要である。(中)
- △ 2学期制に完全移行しても長期休業前に別の評価等をしないことを確認しておく必要があるので、「条件付き」とした。(小)

(4)「働き方改革」の視点から

- 職員にとっては、事務的負担が軽減されている。(小)
- 夏休み前に教育相談の計画や課題づくりを行うことができ、職員から好評だった。秋休み前は長期休業ではないので、課題づくりにも時間はかからなかった。(小)
- 職員にゆとりが生まれた。(小)
- 秋休みがあり、子どもや職員の気分転換ができた。(小)
- 通知表作成の回数が3から2になり、職員の負担が減った。(中)
- 教職員の事務の負担が減り、授業や行事に集中できている。(中)
- △ 「教育相談等の時間を確保するなど、子どもや保護者に関わる時間を充実すること」が2学期制への移行する一番の目的のはずだったので、それを忘れてはならない。(小)

(5) その他(全体的な)の意見・感想

- 夏休みは短くなるが、生活リズムがくずれにくく学校生活が落ち着いた。(中)
- 2学期制にすることで、行事や学習の進め方、評価のあり方等、見直しをするきっかけになっている。3学期制に戻すと、これまでのやり方に戻る可能性がある。(中)
- 働き方改革を含めて、学校改革を進める動機付けとしても2学期制に完全移行してほしい。(中)
- 新型コロナウイルス感染症の流行があり、特に2学期制の効果を実感した。(中)
- △ コロナ禍の影響を大きく受けている現段階においては、2学期制を施行した事による成果や課題を十分に検証することができないため、通常の教育課程での学校運営ができるようになるまで結論は出せない。したがって、2学期制については試行期間を継続する必要がある。(小)

3 2学期制実施についての今後の方向性

上記のとおり、2学期制は概ね好評で、完全実施を望む声もあるが、今年度は、コロナ禍への対応として2学期制が有効に機能した一面がある。また、コロナ禍の影響で、現時点では2学期制が「学力」に与える影響を把握できておらず、保護者・地域等からの反応も十分つかめていない。

したがって、次年度も「試行」を継続し、その効果を検証する必要がある。